

「ふるさとは福島です」
胸を張って言える故郷に

えんどう としひろ
遠藤 俊博

福島県選挙管理委員会委員長、元福島県教育長

昭和25年（1950）、福島市生まれ。
福島大学経済学部を卒業後、福島県庁に入庁。福島県立医科大学事務局長、
商工労働部長、知事直轄理事を歴任し、震災時は福島県教育長として任務にあたる。
退職後、2017年4月より福島県選挙管理委員会委員長を務める。

震災が起きた日は、福島県の公立中学校の卒業式。希望を胸に
新たな旅立ちをした子どもたちにも大きな試練をもたらしました。
私は県の教育長として、まず各学校の被災状況と児童・生徒・教職員の
安否の確認に全力をあげました。その後、全く前例のない難題が一気に
押し寄せ、ありとあらゆる問題を一つ一つ解決し、とにかく前進しようと
精いっぱい職務に励む日々でした。

その年の夏は、ずっと準備を進めてきた「全国高等学校総合文化祭（ふくしま総文）」
が予定されていました。「開催できるのか、どうすれば開催できるか」課題は山積み。
大幅に内容を変更しながらも「開催する」ことを決定しました。開会式当日、会場で
披露された創作劇の「福島に生まれて、福島で育って、福島で働く…」で始まる
セリフは大きな感動を呼び、震災からの切なくつらい日々に一筋の
希望の光となりました。困難の中で子どもたちのために頑張ってくれた
数多くの教職員やスタッフにも感謝しています。
福島県人はこれまで逆風の中、全力で頑張ってきており、自立できる力強さ
があると思います。これからは子どもたちが胸を張って「ふるさとは福島です」
と言える福島県にと願っています。



ふくしま総文の開催会場に届いた、全国からの応援
メッセージ【2011年8月5日付福島民報掲載写真】